

## 2 「回天の門」

藤沢周平の「回天の門」を読んだ。幕末、庄内藩に生まれた清川八郎の物語。

庄内地方、清川村の斉藤家は庄内藩最大の造り酒屋だった。その長男として生を受けた斉藤元司（清川八郎）は当然跡継ぎとなるべき人であった。しかし彼は文武に優れ、小村に留まれる器ではなく、文武両道を教授する塾を開くことが夢だった。

出奔して江戸に出て、学問の道に進む。その傍ら千葉道場で修業し、武道の技も磨き師範となる。そして、ついに幼い頃の希望をかなえ江戸で塾を開く。しかし、時代の流れの中で活動を始め倒幕論者となり東奔西走する。

清川八郎は“策士”と誤解される向きがある。「竜馬がゆく」の中でも清川が登場するが、司馬遼太郎もあまり良くは書いていない。

しかし藤沢周平は、清川の真の姿を世に知らしめることを強く望む同郷の理解者2人の教示により、この小説を完成させた。同郷人とは同じ空気を吸い、同じ野山を知ることによって結ばれる強い絆を感じる関係である。本当にありがたい。(2010.10.09)